



探究する子を育てる

学校長 村越 新

本校で「扇っ子タイム」と呼んでいる〈総合的な学習の時間〉のねらいは、以下の通りです（学習指導要領解説より）。



探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようとする。
- (2) 実社会や実生活の中から問い合わせを見いだし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようとする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

「探求的な学び」とは、物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことといいます。本校では、およそ次のような流れで学習を進めています。

① 課題の設定

日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付けます

② 情報の収集

そこにある具体的な問題について情報を収集します

③ 整理・分析

その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組みます

④ まとめ・表現

明らかになった考え方や意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見つけ、更なる問題の解決を始めます

六年生が探究している課題「なぜスーパーによって物の値段が違うのか?」「色のついた水を蒸発させるとどうなるのか?」「なぜ円周率は3.14なのか」「ザビエルの生涯」「なぜ人はゲームに夢中になるのか」などは、自ら問い合わせを持って取り組んでいるものなのです。

課題を設定する上では、3つの条件と見つけ方を六年生に提示しています。

条件1 本気・夢中になれること

条件2 学びが止まらないこと

条件3 学びの成果を人に発信できること

* 課題の見つけ方例

- ① 学習内容から見つける
- ② 学校行事から見つける
- ③ 地域から見つける
- ④ 将来を思い描く
- ⑤ 自分を見つめる



なお探究的な学びは発表をするために行うものではありません。発表後も続いているものと願っています。

十歳を祝おう

四年生は十歳になったことを祝って、自らの決意を固めたり、これまでお世話になった人に感謝したり、自分の成長を振り返ったりする会を開きました。二十歳が成人だった時には「二分の一成人式」と呼ばれていた時期もある会です。

四年生の子が友達や家族に発信したメッセージはおおよそ次のようなものでした。私も観ていて感動しました。

○十歳までにできるようになったこと (そのことへの感謝、振り返り)

○四年生でできるようになったこと (そのことへの感謝、振り返り)

○将来の夢 (就きたい職業、なりたい大人像)

○友達への感謝 (友達になってくれた、助けてくれた)

○家族への感謝 (これまで支えてくれた)

○歌 (クラス歌、聞いてもらいたい歌)

何歳になっても、自分の人生を振り返ることはとっても大事だと思います。成長したこと自覚し、自信を持ち、生きることの喜びを感じることができます。

また、何歳になっても、支えてくれた人への感謝を忘れてはいけないと思います。ひとりで生きて成長していく人はいません。感謝の気持ちを持つことが、他の人を助けたり、他の人の幸せを願ったりする態度につながるのだと考えます。



同じ一生ならば、感謝しながら、前向きに喜んで生きた方が得だ。どうせやらなければならないのなら、感謝しながら、前向きに喜んでやったほうが得だ。

浜口直太氏の言葉を思い出したので、紹介します。